デンカ株式会社

2027 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2026 年 11 月 9 日

イベント概要

[イベント名] 2027 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

[決算期] 2027 年度　第 2 四半期

[日程] 2026 年 11 月 9 日

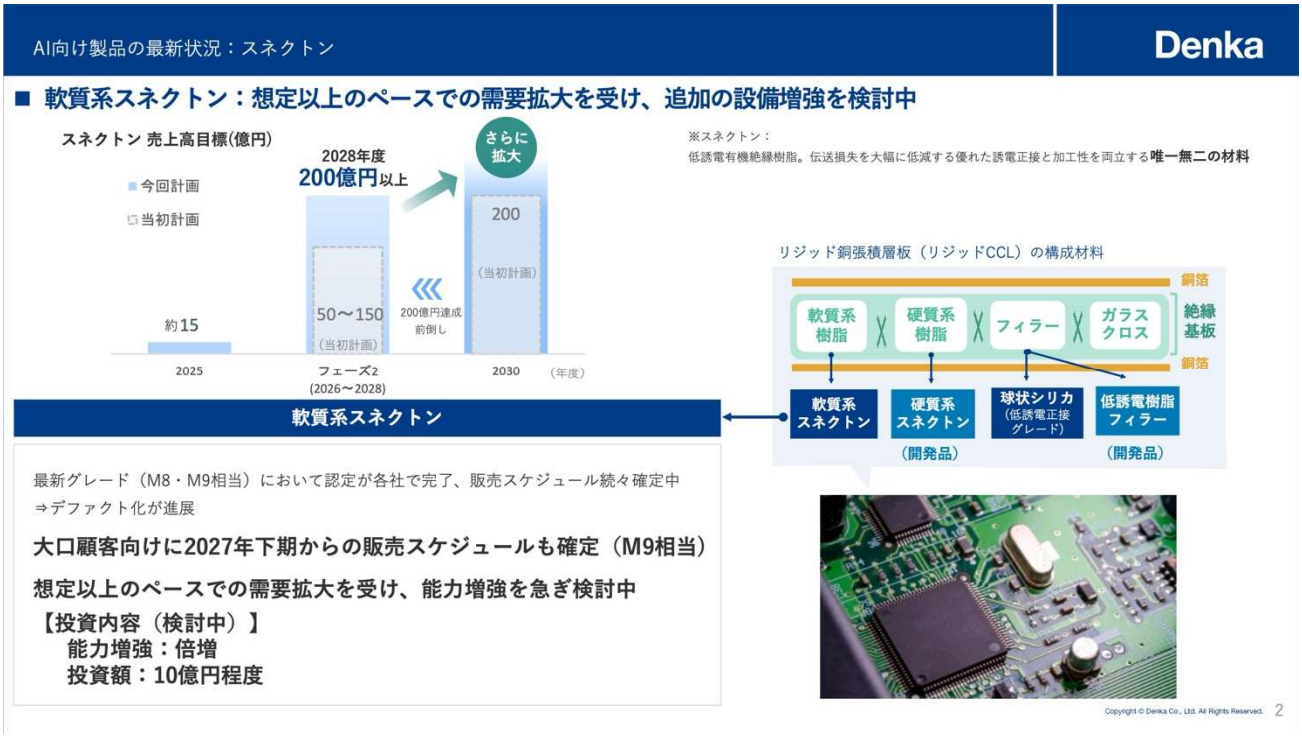
[開催場所] インターネット配信

[登壇者]

代表取締役社長	石田　郁雄	（以下、石田）
取締役専務執行役員 財務戦略担当(CFO)	林田　りみる	（以下、林田）

登壇

石田：石田でございます。本日はご多忙のところ、デンカ株式会社 2026 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より当社事業に対し格別なるご厚情を賜り、重ねて御礼申し上げます。



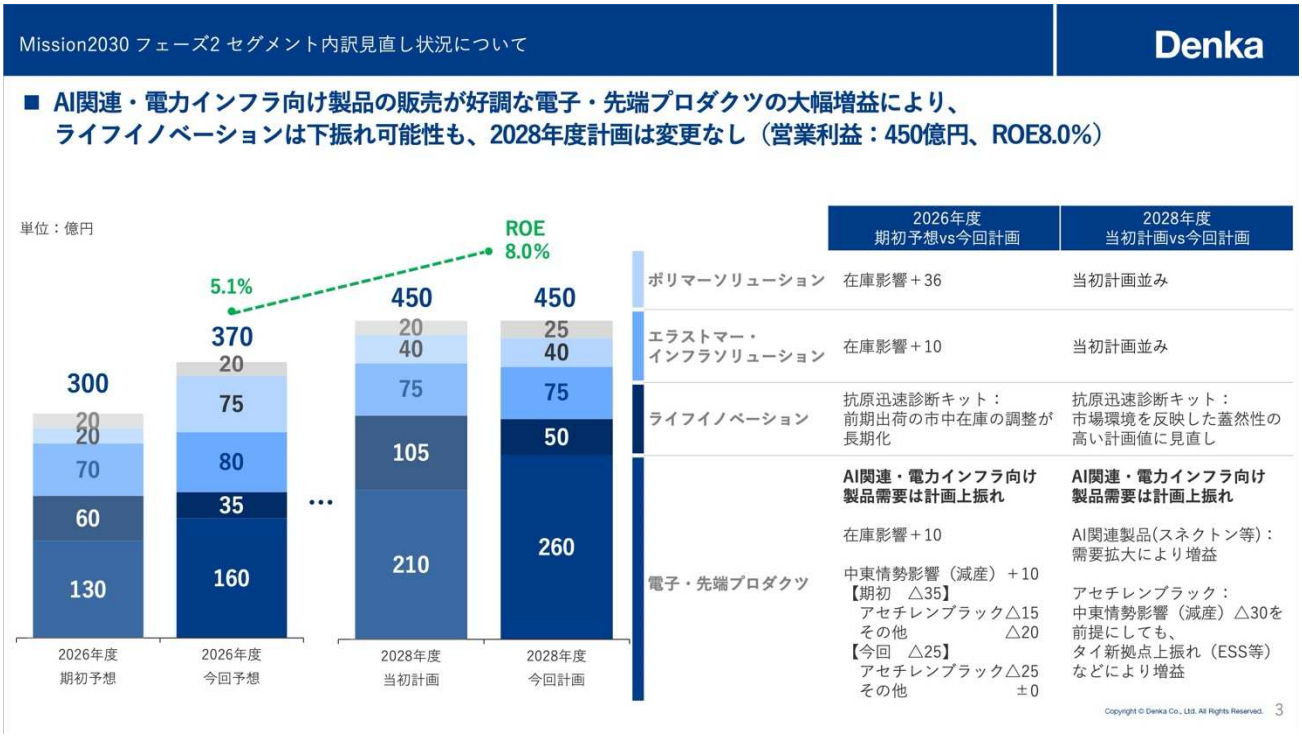
はじめに、当社の成長ドライバーの鍵を握る AI 関連製品、スネクトンの最新の状況をご説明します。

スネクトンは、想定を上回るペースで需要が拡大しています。そのために、当初計画していた売上高の目標 200 億円の達成時期を 30 年度から 28 年度に前倒しすることとしました。30 年度には更なる拡大を見込んでいます。

軟質系スネクトンは、CCL の絶縁層を構成する材料の一つです。AI を始めとする高速通信を実現する CCL の構成材料は、非常に高いレベルの低誘電性接続性が求められており、需要が急拡大しています。

軟質系スネクトンは、CCL の最新グレードである M8・M9 相当において各社の認定が完了し、デファクト化が進んでおり、順調に進展しています。販売スケジュールも続々と確定しており、大口需要家向けに 27 年下期から販売も確定しました。

また、想定以上の需要拡大を受け、能力を倍増する投資を 10 億円程度で急いで検討してまいります。



Mission 2030 フェーズ 2 のセグメント別の見直し状況についてご説明します。後ほど詳細は CFO の林田から説明してもらいますが、今年度の業績予想を、営業利益 300 億円から 370 億円に上方修正しました。

それに伴い、足元のセグメント別の進捗状況に合わせて経営計画 Mission 2030 フェーズ 2 のセグメント別内訳も見直しました。

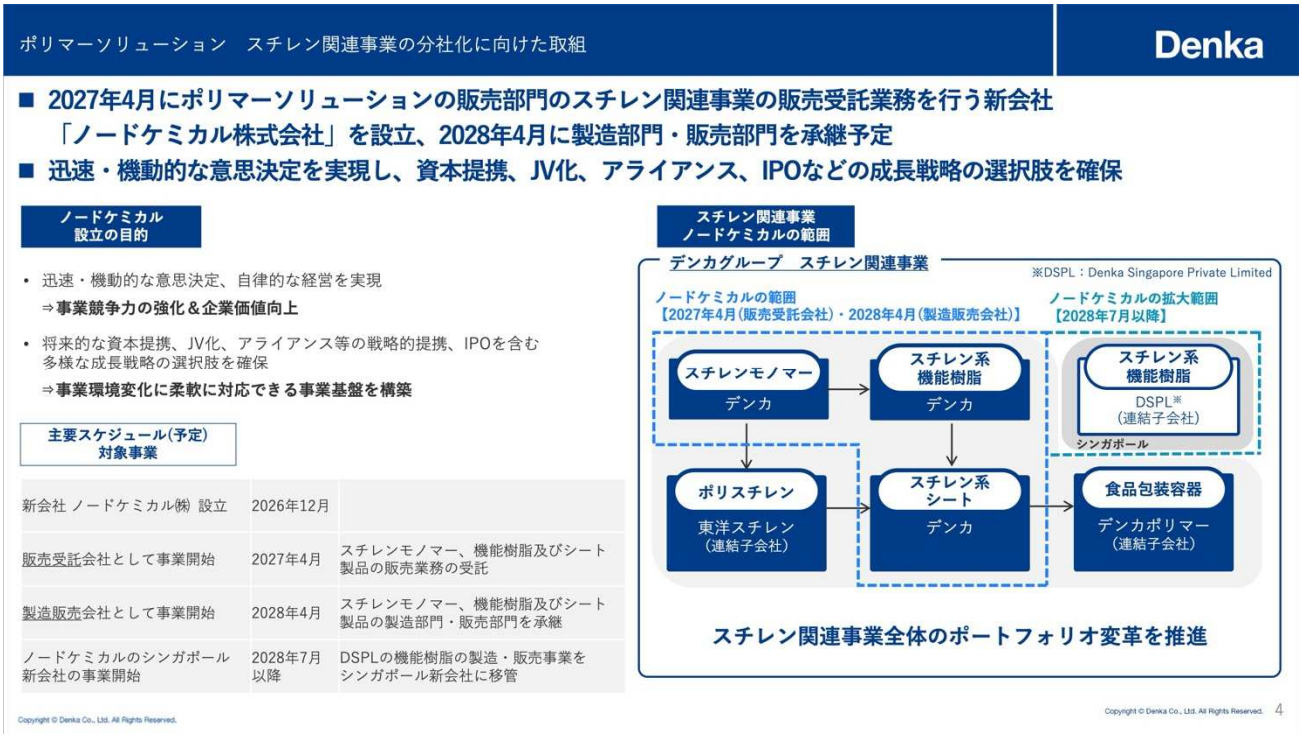
AI、電力インフラ製品の販売が好調な電子・先端プロダクツ部門は、足元で期初計画を上回っており、26 年度の営業利益は 160 億円と大幅な増益となる見通しです。

ちなみに、この 160 億円の中には、アセチレンブラックのシンガポールの減産影響マイナス 25 億円なども含まれているので、当社の成長ドライバーとして力強く成長していることがうかがえると思います。

28 年度の計画にも需要拡大を織り込み、営業利益を 210 億円から 260 億円へ上方修正しました。スネクトンを始めとする AI 関連製品が増益となるほか、アセチレンブラックはマイナス 30 億円の減産影響を前提とした場合でも、ESS 向け需要の拡大に伴うタイ新拠点の上振れにより、当初計画を大幅に上回る見通しです。

一方、ライフイノベーション部門は、検査キットの市中在庫の調整が長期化していることを受け、今年度の予想を 60 億円から 35 億円に下方修正しました。28 年度の計画も、市場環境を反映した蓋然性の高い計画値とするため、105 億円から 50 億円へ見直しています。

全体としては、ライフイノベーション部門の下振れ可能性がありますが、電子・先端プロダクツ部門の想定を上回る成長が見込まれることから、28 年度は当初計画通り、営業利益 450 億円、ROE8%を目指すことに変わりはありません。



ポリマーソリューション部門における、スチレン関連事業の分社化に向けた取り組みについてご説明します。当社は、今年 2 月に公表の通り、27 年 4 月を目途としたスチレン関連事業の分社化の検討を進めてまいりました。

検討の結果、27 年 4 月にスチレン関連事業の販売受託業務を行う新会社、ノードケミカル株式会社の設立を決定しました。28 年 4 月には、製造部門と販売部門を承継する予定です。シンガポールの機能樹脂の製造・販売事業は、28 年 7 月以降に新会社に移管する予定です。

ノードケミカルの設立により、迅速かつ機動的な意思決定、自立的な経営を実現し事業競争力の強化と企業価値の向上に努めます。

あわせて、将来的な資本提携、ジョイントベンチャー化、アライアンス等の戦略的提携、さらには IPO も含む多様な成長戦略の選択肢を確保し、事業環境の変化に柔軟に対応できる事業基盤を構築します。

今後も、ノードケミカル、東洋スチレン、デンカポリマーを含むスチレン関連事業全体のポートフォリオ変革にスピード感を持って取り組んでまいります。



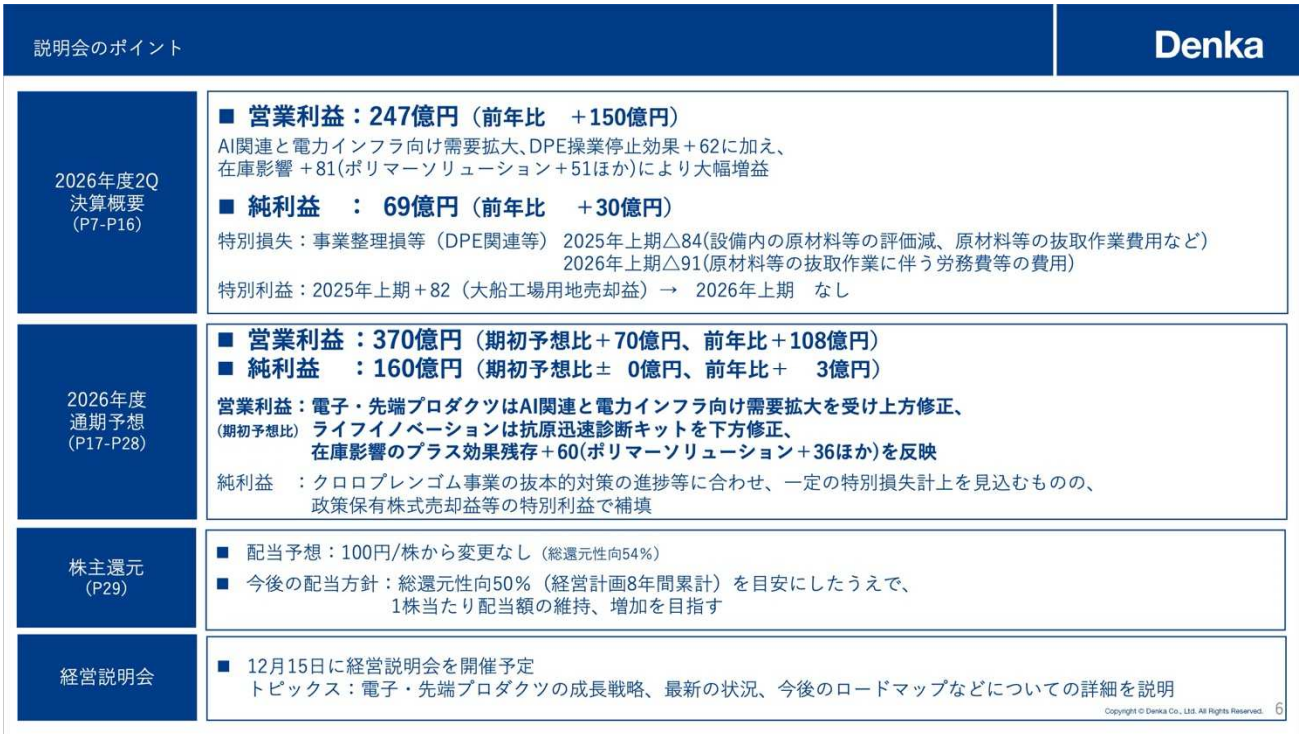
クロロプレンゴムの米国製造子会社である DPE の暫定停止後の業績影響と最新状況についてご説明します。

DPE の製造設備については、安全な状態で休止させるための原材料や中間品などの物質の抜き取り処分が完了しました。作業の完了に伴い、従業員数は 26 年 10 月末時点の約 70 名から 27 年 1 月以降は 40 名強まで減少する見込みです。

並行して、ステークホルダーとの協議にも最大限注力してまいります。早期解決および今後の費用負担の最小化を目指します。

業績影響についてご説明します。営業利益における抜本的対策の効果は、26 年度上期は 25 年度比でプラス 62 億円となりました。操業停止前の 24 年度比ではプラス 150 億円となります。

一方で、特別損益における影響は、原材料等の抜き取り作業に伴う労務費などが発生し、上期でマイナス 91 億円を計上しました。下期も一定の費用が特別損失として発生することを見込んでいます。これに対し、今年度も特別利益などで補填し、最終利益をコントロールしたいと考えています。



今回の決算のサマリーです。26 年度第 2 四半期決算は、営業利益は 247 億円、純利益は 69 億円となり、前年比増益となりました。

また、先ほどもお話しした通り、26 年度の通期の営業利益予想は 370 億円に上方修正しています。純利益は期初予想から変更ありません。配当予想についても期初予想から変更ありません。

なお、12 月 15 日に経営説明会を開催する予定です。先ほども 28 年度の見通しをお話ししましたが、力強く成長している電子・先端プロダクツ部門をトピックスとして、成長戦略、最新の状況、そして今後のロードマップなどについて詳細を説明させていただく予定です。

次のページから、業績の詳細を CFO の林田より説明します。林田さん、よろしくお願いします。

2026年度2Q 決算概要　① 連結サマリー（前年比）

Denka

■ **営業利益：大幅増益（前年比、8月予想比）**

単位：億円	2025年度 上期実績	**2026年度 上期実績**	(前年比)	2026年度 8月予想	(8月予想比)
売上高	1,967	**2,087**	+120	2,050	+37
営業利益	97	**247**	+150	170	+77
営業利益率	5.0%	**11.8%**	+6.9%	8.3%	+3.5%
経常利益	68	**212**	+144	110	+102
特別利益：大船工場用地売却益	82	**0**			
特別損失：事業整理損失等(DPE関連)	△ 84	**△ 91**			
特別損失：事業整理損失等(その他)	△ 10	**△ 14**			
特別損益：その他	5	**0**			
純利益	39	**69**	+30	0	+69
為替レート（円/＄）	146.2	**160.5**		160.4	
国産ナフサ（円/Kリットル）	65,000	**107,600**		99,300	

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 8

林田：林田でございます。

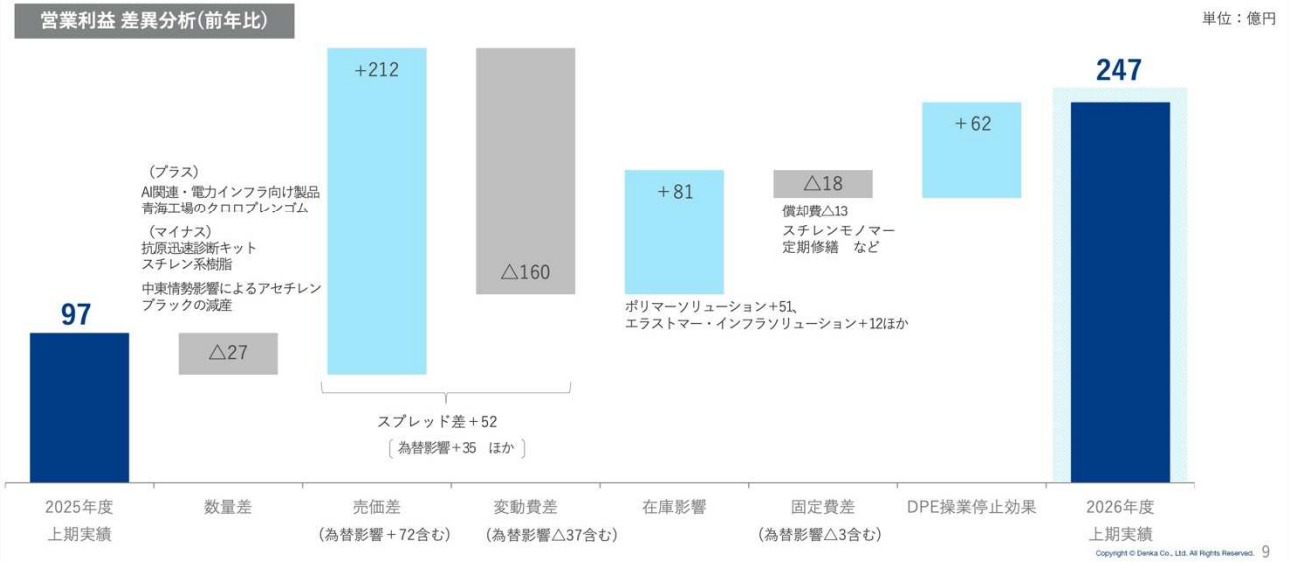
まず、決算の説明をします。2026 年度第 2 四半期決算は、売上高が 2,087 億円、営業利益が 247 億円、経常利益が 212 億円、純利益は 69 億円となりました。

以上の通り、前年との比較並びに 8 月に公表した予想値との比較で、いずれも大幅な増益となっています。

2026年度2Q 決算概要　② 営業利益 増減要因（前年比）

Denka

■ **抗原迅速診断キット・スチレン系樹脂の販売減も、AI関連と電力インフラ向け需要拡大、DPE操業停止効果に加え、在庫影響により大幅増益**



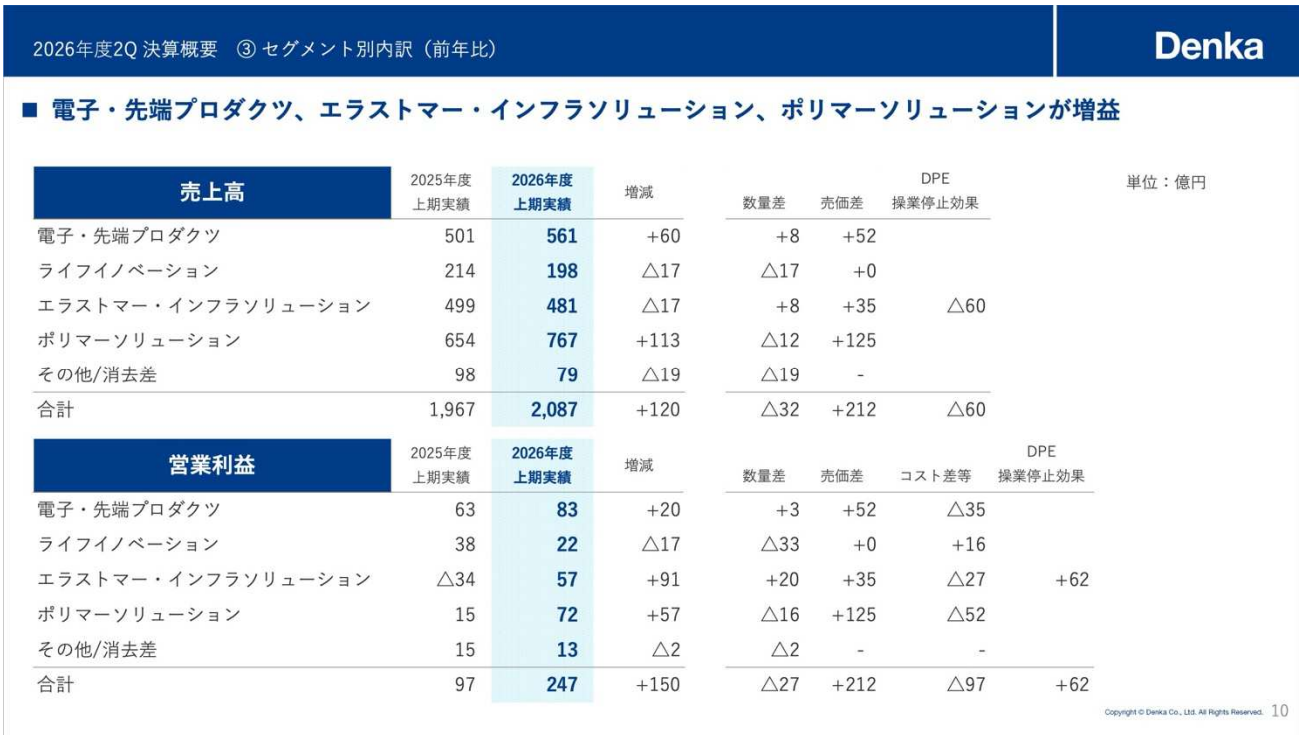
Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 9

営業利益の前年同期比増減要因をご説明します。数量差は、AI 関連・電力インフラ向け製品と、青海工場のクロロプレンゴムの販売が増加した一方で、検査キットやスチレン系樹脂の販売が減少しました。加えて、中東情勢影響に伴う原料調達難によるアセチレンブラックの減産もあり、全体ではマイナス 27 億円となりました。

売価差と変動費差をネットしたスプレッド差は、為替影響のほか値上げの実施などにより、プラス 52 億円になりました。加えて、現燃料価格高騰前の期首在庫の販売による在庫影響がプラス 81 億円となりました。

また、固定資産は償却費の増加やスチレンモノマープラントにおける 4 年に一度の大規模な定期修繕などによりマイナス 18 億円、DPE 操業停止効果はプラス 62 億円となっています。

以上により、営業利益は 247 億円と大幅増益となりました。



セグメント別の売上高、営業利益の差異分析です。電子・先端プロダクツは、AI 関連・電力インフラ向け製品の販売好調による構成差で売価差が良化しました。

エラストマー・インフラソリューションは DPE の操業停止効果、そしてポリマーソリューションは在庫影響により、それぞれ増益となり、全体で大幅増益となりました。

2026年度2Q 決算概要　④ 営業利益 セグメント別増減（2026年度1Q比）

Denka

■ 電子・先端プロダクツとライフイノベーションが増益

単位：億円

売上高	2024年度				2025年度				2026年度		1Q比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	（増減）
電子・先端プロダクツ	219	232	225	247	236	265	258	285	264	**297**	+34
ライフイノベーション	78	146	127	82	66	148	135	56	70	**128**	+58
エラストマー・インフラソリューション	292	272	280	272	258	241	229	248	237	**245**	+8
ポリマーソリューション	326	349	349	330	338	316	278	309	361	**407**	+46
その他/消去差	38	40	44	56	43	56	40	37	39	**41**	+2
合計	952	1,038	1,025	987	941	1,026	941	935	970	**1,117**	+148

営業利益	2024年度				2025年度				2026年度		1Q比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	（増減）
電子・先端プロダクツ	23	27	20	22	25	38	34	41	37	**47**	+10
ライフイノベーション	17	40	19	20	2	36	28	△4	2	**19**	+17
エラストマー・インフラソリューション	△2	△29	△26	△23	△14	△20	11	24	27	**29**	+2
ポリマーソリューション	3	4	4	1	4	11	5	16	36	**36**	△0
その他/消去差	7	5	7	5	6	9	6	3	7	**6**	△2
合計	47	47	24	26	23	74	85	80	110	**137**	+27

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 11

各セグメントの四半期ごとの推移と前四半期との比較をお示ししています。セカンドクォーターは、電子・先端プロダクツとライフイノベーションの増益が大きく、全体でも増益となりました。

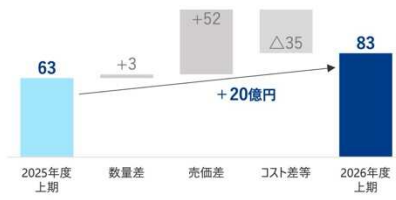
2026年度2Q 決算概要　⑤ 電子・先端プロダクツ(前年比)

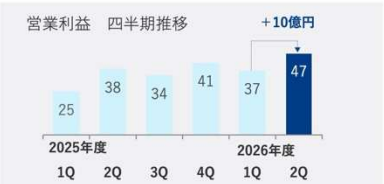
Denka

■ AI関連・電力インフラ向け需要拡大により数量差および売価構成良化

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円





2Q単体(1Q比)
・アセチレンブラック減産影響本格化も、球状シリカ・球状アルミナなど全般的に販売が増え、増益

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved.

差異理由（前年比）	数量差	用途別 AI関連・電力インフラ	用途別 半導体・電子部品（AI除く）	用途別 その他	売価差		コスト差等
スネクトン	→	**樹脂基板用途** 下期よりAI向け販売が本格化	–	–	→	前年並	
球状シリカ	↗	**樹脂基板用途** AI向け好調が継続 **光フェルール用途** 拡大が継続	**封止材用途** 緩やかな需要回復が継続	–	↗	原燃料価格上昇に伴う値上げ 構成差（AI関連増）	↘
球状アルミナ	→	**放熱封止材用途** AI向け好調が継続	**TIM用途** 緩やかな需要回復が継続	**xEV用途** 欧州向け低調			
高機能フィルム	↗	–	緩やかに回復	–	↗	原燃料価格上昇に伴う値上げ	原燃料価格上昇
アセチレンブラック	↘	**電力インフラ向け** 高圧ケーブル需要堅調も中東情勢影響により減産、ESS向けは急伸	–	**xEV用途** 欧州向け低調	↗	原燃料価格上昇に伴う値上げ 構成差（電力インフラ向け増）	償却費増△3
アルシンク	→	**電力インフラ向け** 好調継続	–	**電鉄向け** 需要堅調	↗	構成差（電力インフラ向け増）	
窒化珪素(粉)	↘	–	–	**放熱基板向け・ベアリングボール向け** EV市場低調	→	前年並	
セラミックス基板（窒化珪素基板・窒化アルミ基板）	↘	–	–	**xEV用途** 欧州向け低調 **電鉄向け** 引き続き堅調	↗	計画並みに値上げ進捗	

12

続いて、セグメント別差異分析の詳細についてご説明します。

電子・先端プロダクツは、AI 関連と電力インフラ向けの需要拡大により、数量差が前年比プラスとなったほか、売価構成も良化し増益となりました。

用途別の販売動向としては、樹脂基板用途と光フェルール用途の球状シリカ、放熱封止材用途の球状アルミナの需要拡大が継続しました。スネクトンは下期から AI 向け販売が本格化する見通しです。

アセチレンブラックについては、電力インフラ用途の高圧ケーブル向けは、需要は堅調であったものの、中東情勢影響による原料調達難から減産を余儀なくされました。一方、データセンター用途の ESS 向け販売は急速に拡大しました。

売価差は、AI 関連・電力インフラ向け販売が増加した球状シリカ、球状アルミナ、アセチレンブラック、アルシンクで構成差が良化し、前年比プラスとなりました。セラミックス基盤は計画並みに値上げが進捗し、前年比プラスです。

セグメント全体のコストは、原燃料価格の上昇や償却費の増加などにより、前年から上昇しました。

なお、スライド左下に前四半期との比較を示しています。セカンドクォーターは、アセチレンブラックの減産影響が本格化した一方で、球状シリカ、球状アルミナなどを中心に全般的に販売が増え、ファーストクォーターと比較し増益となりました。

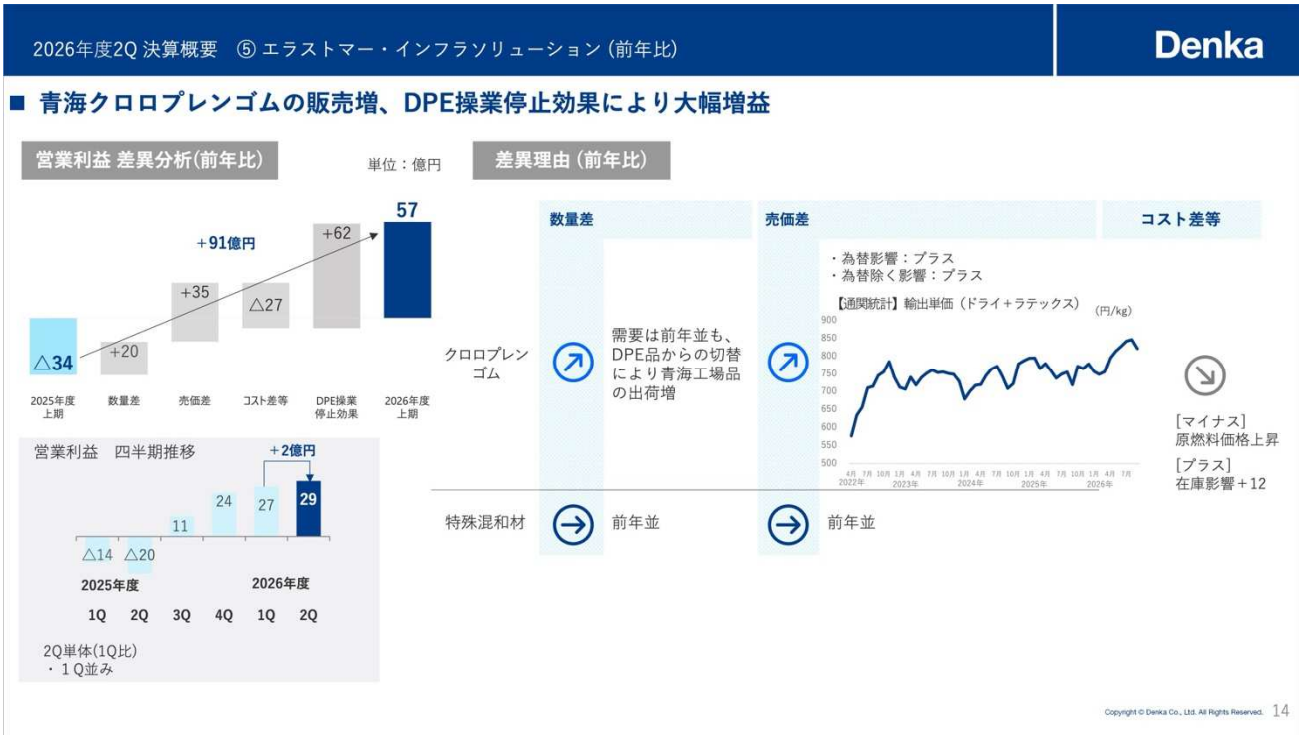


ライフイノベーションについてご説明します。ライフイノベーションは、検査キットの市中在庫の調整が長期化し、販売数量が大幅減となったことから、減益となりました。

そのほか、インフルエンザワクチンは、一部出荷が下期にずれ込んだことにより、販売数量が前年比マイナスとなりました。臨床試薬は、カイノスの連結化による増分を含め前年を上回り、緩やかに成長しました。

コスト差は、研究費の減少や在庫影響などにより良化しました。

ファーストクォーター比では、ワクチンの出荷が始まったことやインフルエンザの早期流行による検査キットの販売増加などにより、増益となっています。



エラストマー・インフラソリューションについてご説明します。エラストマー・インフラソリューションは、クロロプレンゴムの需要は前年並みとなりましたが、DPE 品からの順調な切り替えにより、青海工場品の出荷が増加しました。

これに加え、DPE 操業停止効果はプラス 62 億円となり、セグメント全体で大幅増益となりました。

なお、ファーストクォーターとの比較では、前四半期並みとなっています。

2026年度2Q 決算概要　⑤ ポリマーソリューション(前年比)

Denka

■ スチレン系樹脂の販売減も、在庫影響＋51のプラス効果残存により大幅増益



Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 15

ポリマーソリューションについてご説明します。ポリマーソリューションは、在庫影響がプラス51 億円と大きく、大幅増益となりました。

製品別の状況では、MS 樹脂は中国品との競合により販売数量が減少しました。また、AS・ABS・透明樹脂などスチレン系樹脂も需要が低調となり、前年を下回りました。

ファーストクォーター比では、前四半期並みです。

2026年度2Q 決算概要　⑥ セグメント別内訳（8月予想比）

Denka

■ AI関連・電力インフラ向け需要増および在庫影響のプラス効果により上振れ

単位：億円

売上高	2026年度 上期 8月予想	2026年度 上期 実績	増減	数量差	売価差	DPE 操業停止影響
電子・先端プロダクツ	550	**561**	＋11	＋6	＋5	
ライフイノベーション	170	**198**	＋28	＋26	＋1	
エラストマー・インフラソリューション	500	**481**	△ 19	△ 20	＋1	±0
ポリマーソリューション	730	**767**	＋37	＋17	＋21	
その他/消去差	100	**79**	△ 21	△ 21	-	
合計	2,050	**2,087**	＋37	＋9	＋28	±0

営業利益	2026年度 上期 8月予想	2026年度 上期 実績	増減	数量差	売価差	コスト差等	DPE 操業停止影響
電子・先端プロダクツ	60	**83**	＋23	＋11	＋5	＋8	
ライフイノベーション	10	**22**	＋12	＋7	＋1	＋3	
エラストマー・インフラソリューション	50	**57**	＋7	＋4	＋1	＋1	±0
ポリマーソリューション	40	**72**	＋32	△ 6	＋21	＋17	
その他/消去差	10	**13**	＋3	＋3	＋0	△ 0	
合計	170	**247**	＋77	＋20	＋28	＋29	±0

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 16

8 月予想との比較をセグメント別にお示ししています。8 月に公表した予想と比べ、電子・先端プロダクツは、AI 関連・電力インフラ向け需要が想定を上回りました。

一方、ライフイノベーションは、インフルエンザの流行が想定よりも早く、検査キットの販売が上振れました。また、ポリマーソリューションは、在庫影響のプラス効果が想定を上回りました。

これらにより、全体でも期初予想を上回っています。



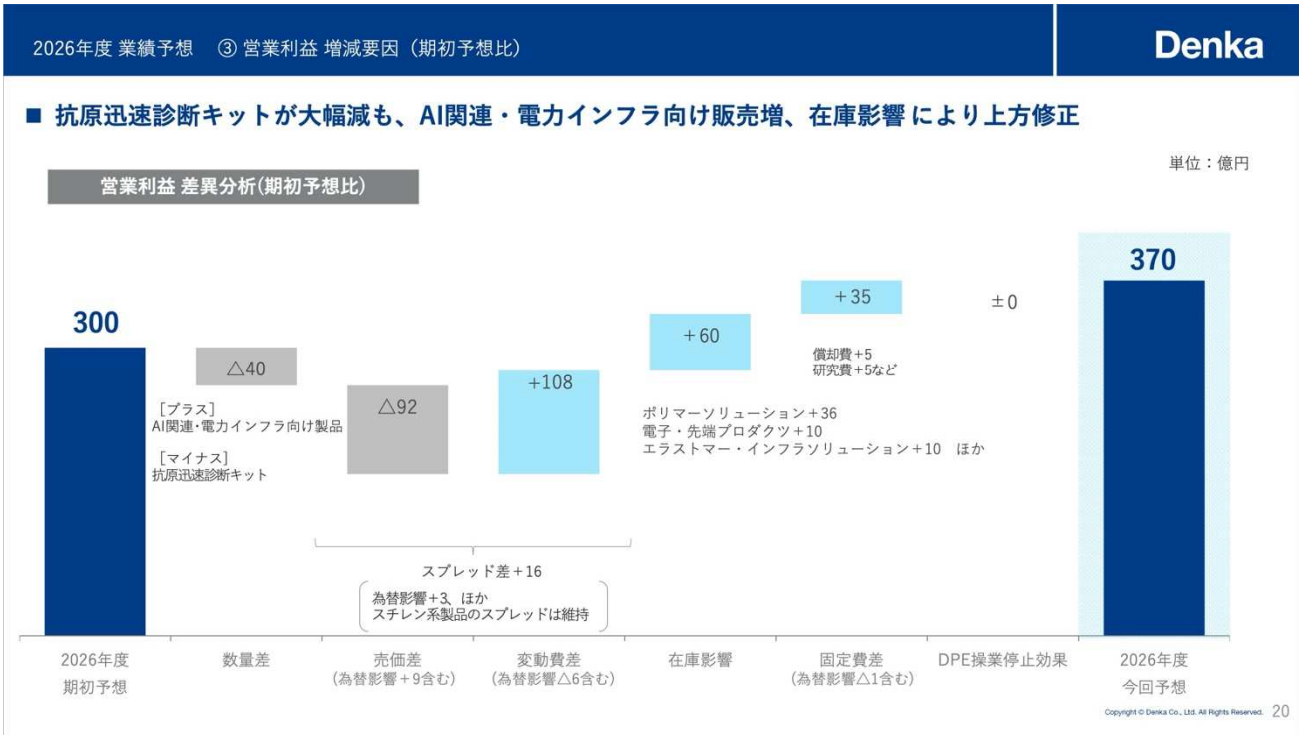
単位：億円	2025年度 上期実績	2025年度 下期実績	2025年度 実績	2026年度 上期実績	2026年度 下期予想	2026年度 今回予想	（前年比）	（期初予想比）
売上高	1,967	1,875	3,842	2,087	2,163	4,250	+408	△ 250
営業利益	97	165	262	247	123	370	+108	+70
営業利益率	5.0%	8.8%	6.8%	11.8%	5.7%	8.7%	+1.9%	+2.0%
経常利益	68	125	193	212	48	260	+67	+60
特別利益：政策保有株式売却益、用地売却益 等	82	126	208	-				
特別損失：事業整理損失等(DPE関連)	△ 84	△ 100	△ 184	△ 91	損失			
特別損失：事業整理損失等(その他)	△ 10	△ 17	△ 27	△ 14				
特別損益：その他(負ののれん等)	5	19	24	-	-	-		
純利益	39	118	157	69	91	160	+3	±0
為替レート (円/$)	146.2	154.3	150.2	160.5	158.0	159.2		
国産ナフサ (円/Kリットル)	65,000	67,000	65,800	107,600	89,200	98,400		

それでは、業績予想について説明します。2026 年度通期の業績予想は、売上高が 4,250 億円、営業利益が 370 億円、経常利益が 260 億円、純利益は 160 億円としました。営業利益と経常利益を上方修正していますが、純利益については期初予想から変更ありません。

下期も、特別損失として DPE 関連などで一定の費用が発生する見込みですが、今年度も特別利益などで補填し、最終利益をコントロールしてまいります。

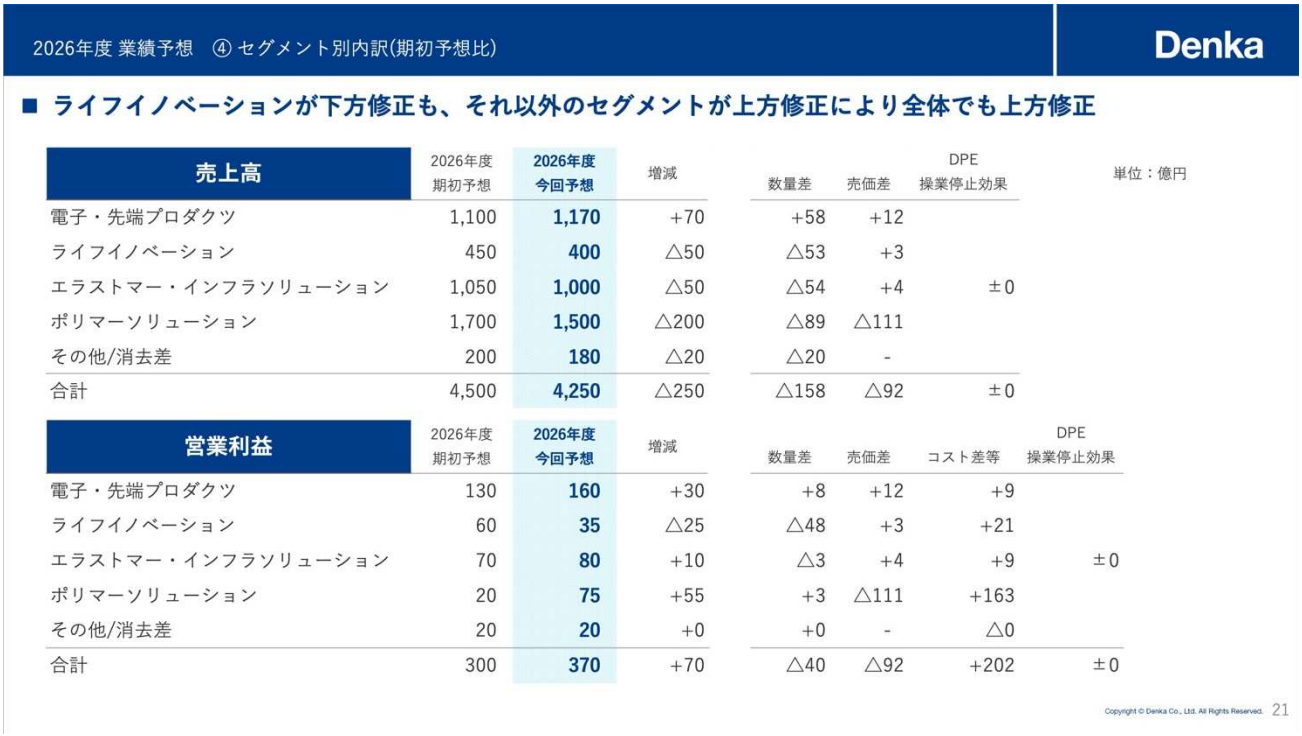


業績予想の前提となる市場の見通しをご説明します。まず、電子・先端プロダクツでは、AI 関連の半導体や電子部品、電力インフラ向けの ESS 用途が、期初想定以上のペースで需要が拡大する見通しです。感染症検査は、市中在庫の調整の長期化を見込んでいます。



営業利益の期初予想比の増減要因をご説明します。数量差は、AI 関連・電力インフラ向け製品の需要拡大を見込む一方で、検査キットの大幅な数量減により全体でマイナス 40 億円の見通しです。

売価差と変動費差をネットしたスプレッド差はプラス 16 億円、在庫影響はポリマーソリューションを中心にプラス 60 億円を見込んでいます。固定資産は、償却費と研究費の減少などによりプラス 35 億円を見込んでいます。

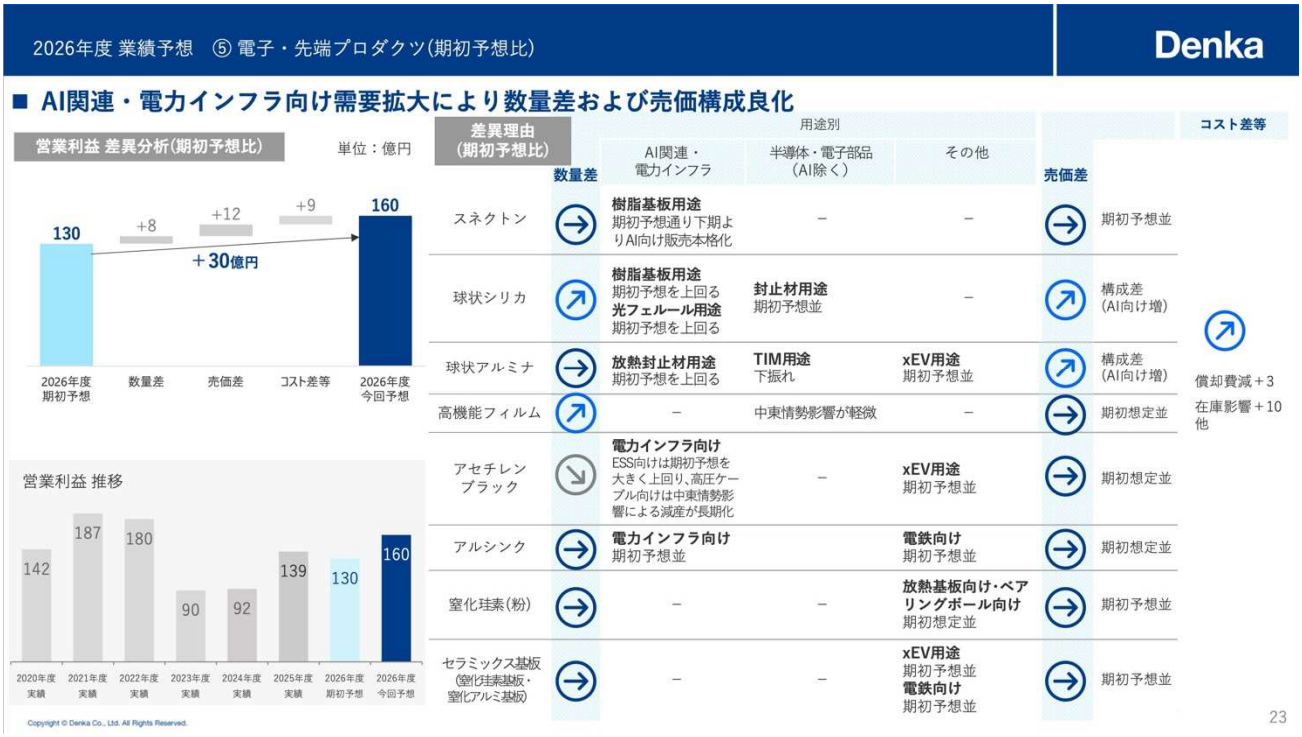


売上、営業利益をセグメント別に比較したものです。ライフイノベーションを下方修正した一方で、それ以外のセグメントを上方修正したので、全体では大幅な上方修正となりました。

ここでお示しした増減要因をセグメントごとにご説明します。



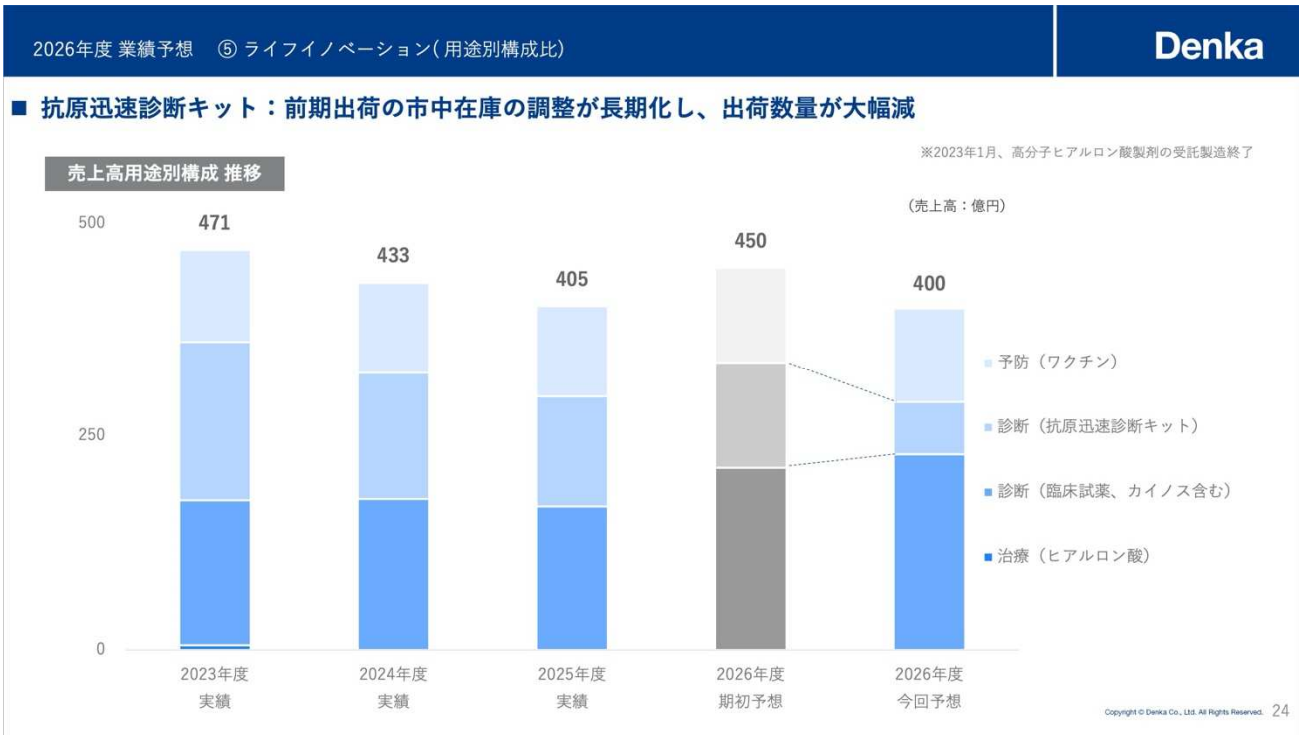
まず、電子・先端プロダクツの売上高、用途別構成の推移についてご説明します。AI 関連・電力インフラ向け、いずれも期初予想を上回るペースで需要が拡大する見通しです。



電子・先端プロダクツの営業利益の増減要因をご説明します。電子・先端プロダクツは、AI 向け・電力インフラ向けの需要拡大により数量差が期初予想比プラスとなるほか、売価構成も良化する見通しです。AI 関連での球状シリカと球状アルミナの販売数量が、期初を上回る見通しです。

電力インフラ向けのアセチレンブラックは、ESS 用途が期初予想を上回る見通しです。高圧ケーブル用途は、需要は堅調ですが、中東情勢影響による減産の長期化により、アセチレンブラック全体の数量は期初予想を下回る見通しとしています。

売価差は、AI 関連の販売が増加した球状シリカ、球状アルミナで構成差が良化し、期初予想比プラスを見込んでいます。コスト差は、償却費の減少と在庫影響により改善する見通しです。



ライフイノベーションについて説明します。ライフイノベーションの売上高用途別構成の推移についてお示ししています。

検査キットは、市中在庫の調整が長期化し、出荷数量が大幅に減少する見通しです。臨床試薬は、堅調な販売が継続しています。



ライフイノベーションの営業利益の増減要因を説明します。前のページでご説明した通り、検査キットの販売数量が大幅に減少することから下方修正しています。なお、コスト差は、研究費の減少、在庫影響などにより改善する見通しです。



エラストマー・インフラソリューションについてご説明します。エラストマー・インフラソリューションは、在庫影響のプラス効果 10 億円により、上方修正しました。

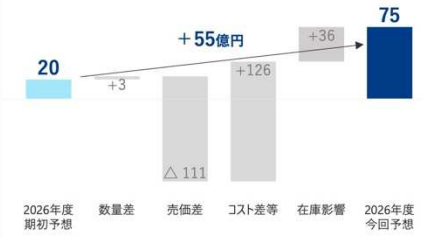
2026年度 業績予想　⑤ポリマーソリューション(期初予想比)

Denka

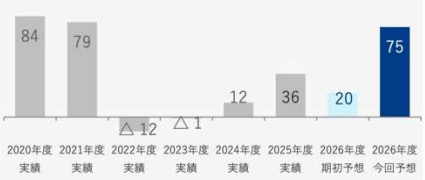
■ 在庫影響により上方修正

営業利益 差異分析(期初予想比)

単位：億円



営業利益 推移



差異理由(期初予想比)

	数量差	売価差	コスト差等
MS樹脂	PCモニター向け導光板用途 期初想定していた 中東情勢影響は軽微も、 中国品との競合による販売減で下振れ	スチレン系樹脂： 原燃料価格が期初想定を下回る （スプレッドは維持）	変動費：原燃料価格が期初想定を下回る 在庫影響+36
AS・ABS・透明樹脂など	期初想定していた 中東情勢影響が軽微に留まり出荷増		
食包シート・容器	期初想定並	原燃料価格が期初想定を下回る （スプレッドは改善）	
Toyokalon	期初想定していた 中東情勢影響が軽微に留まり出荷増	期初想定並	

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 27

ポリマーソリューションについて説明します。ポリマーソリューションは、在庫影響のプラス効果36億円やスプレッドの改善などにより、上方修正しています。

2026年度 業績予想　⑥ セグメント別投資・償却費・研究費

Denka

■ 償却費・研究費が減少

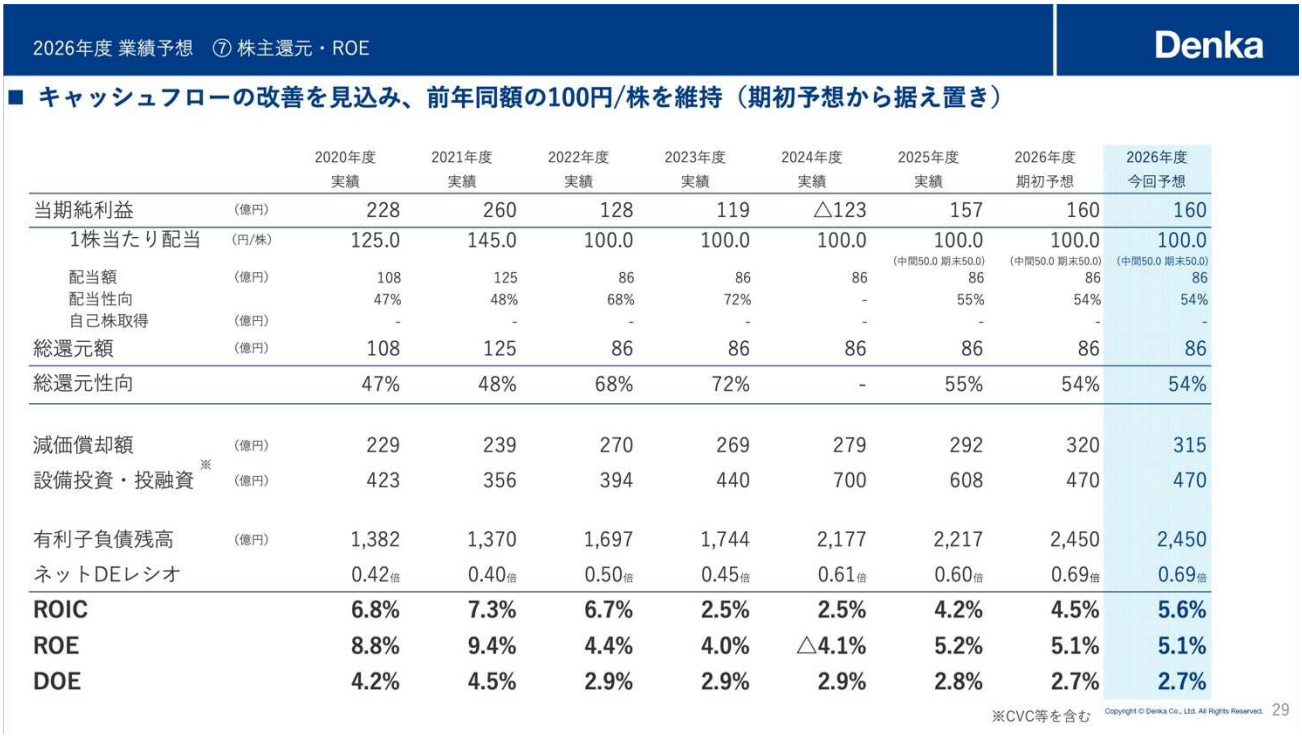
単位：億円

	設備投資・投融資額※1				減価償却費				研究開発費			
	上期（前年比）		通期（期初予想比）		上期（前年比）		通期（期初予想比）		上期（前年比）		通期（期初予想比）	
	2025年度 上期 実績	2026年度 上期 実績	2026年度 期初 予想	2026年度 今回 予想	2025年度 上期 実績	2026年度 上期 実績	2026年度 期初 予想	2026年度 今回 予想	2025年度 上期 実績	2026年度 上期 実績	2026年度 期初 予想	2026年度 今回 予想
電子・先端プロダクツ	117	**148**	250	変更なし	55	**58**	120	**117**	29	**32**	70	**70**
ライフイノベーション	12	**32**	40		21	**23**	42	**42**	23	**17**	40	**35**
エラストマー・インフラソリューション	38	**55**	100		42	**43**	90	**88**	13	**15**	30	**30**
ポリマーソリューション	23	**50**	70		25	**32**	64	**64**	10	**13**	20	**20**
その他/消去差	1	**2**	10		2	**2**	4	**4**	-			
合計	191	**288**	470		144	**157**	320	**315**	75	**76**	160	**155**

※1「その他」にCVC等を含む

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 28

セグメント別の投資・償却費・研究費についてお示ししています。26年度の投資は、期初予想からの変更はありません。償却費と研究費については、足元の進捗に応じて若干減少する見通しです。



2026年度 業績予想　⑦ 株主還元・ROE

Denka

■ キャッシュフローの改善を見込み、前年同額の100円/株を維持（期初予想から据え置き）

		2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 期初予想	2026年度 今回予想
当期純利益	(億円)	228	260	128	119	△123	157	160	160
1株当たり配当	(円/株)	125.0	145.0	100.0	100.0	100.0	100.0 (中間50.0 期末50.0)	100.0 (中間50.0 期末50.0)	100.0 (中間50.0 期末50.0)
配当額	(億円)	108	125	86	86	86	86	86	86
配当性向		47%	48%	68%	72%	-	55%	54%	54%
自己株取得	(億円)	-	-	-	-	-	-	-	-
総還元額	(億円)	108	125	86	86	86	86	86	86
総還元性向		47%	48%	68%	72%	-	55%	54%	54%
減価償却額	(億円)	229	239	270	269	279	292	320	315
設備投資・投融資※	(億円)	423	356	394	440	700	608	470	470
有利子負債残高	(億円)	1,382	1,370	1,697	1,744	2,177	2,217	2,450	2,450
ネットDEレシオ		0.42倍	0.40倍	0.50倍	0.45倍	0.61倍	0.60倍	0.69倍	0.69倍
ROIC		**6.8%**	**7.3%**	**6.7%**	**2.5%**	**2.5%**	**4.2%**	**4.5%**	**5.6%**
ROE		**8.8%**	**9.4%**	**4.4%**	**4.0%**	**△4.1%**	**5.2%**	**5.1%**	**5.1%**
DOE		**4.2%**	**4.5%**	**2.9%**	**2.9%**	**2.9%**	**2.8%**	**2.7%**	**2.7%**

※CVC等を含む

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved.

株主還元・ROE についてご説明します。26 年度の還元方針については、経営計画 8 年間累計で総還元性向 50%を目安とした上で、1 株当たり配当額の維持、増加を目指す方針からの変更はありません。配当予想についても、前年同額の 1 株当たり 100 円配当と期初予想からの変更はありません。

私からの説明は以上でございます。